

第39回 群馬県青少年健全育成審議会結果概要

ぐんま子ども・若者未来ビジョン2020目標数値及び達成状況(令和6年度実績)

基本方針Ⅰ 総合意見

- ・ 項目により達成レベルが固定化されている様に見える。

基本方針Ⅰ-1 各号

- ・ 制度・設備等の充実が進んでいる様だが施設数・質・利用頻度の数値化(見える化)を希望

基本方針Ⅰ-1 朝食を全く食べない小学生、中学生の割合

- ・ 児童が主体となって考え、保護者に重要性を伝えて欲しい。
- ・ 満足に朝食が摂れない児童に対する支援が必要になって来た。
- ・ 貧困率などが一因であれば、栄養教諭による指導だけで改善するか疑問

基本方針Ⅰ-2 10代の自殺者数

- ・ 子どもたちの苦しみを緩和する様なコミュニティサイトが必要。
- ・ 原因を詳しく調べるべき。
- ・ 他人に相談できる環境造りが必要。
- ・ 民間の機関と連携し、関係者と継続的な相談に関われると良い。

基本方針Ⅱ-1 合計特殊出生率

- ・ 子育ての大変さ、家族を守っていく教育・体験が中学、高校でできると良い。

基本方針Ⅲ-1 児童虐待死亡件数

- ・ 今後も体制強化・通報・相談窓口の広報、周知を広く行っていただきたい。

基本方針Ⅲ-2 生活困窮世帯等への学習支援実施数

- ・ 生活困窮世帯の把握する仕組みが乏しいのに行政施策の進捗を評価できるか疑問
- ・ 学習支援実施市町村数の評価目標は進学準備金制度など具体的な内容に限定して評価すべきではないか。
- ・ ひとり親の正規雇用率は困窮の原因をあぶり出すだけでなく企業の様々な働き方の準備に繋がるきっかけとなるので調査を定着させるべき。
- ・ 困窮世帯への実施市町村、こども食堂がある市町村につき目標値に関係なく利用者数・利用者層を教えていただくと効果や当該地域で機能等が窺えるのではないか。

基本方針Ⅲ-4 外国人生徒の進学率と全体の進学率との差

<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学時に相談に来る様に伝えるのでは遅い。小・中学校に入学した時から補助員を付けて理解できる様に関わっていくのが理想。
基本方針Ⅲ－４・Ⅳ－１ 里親等委託率・里親登録世帯数
<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録世帯数の増加にも関わらず委託率が伸び悩んでいるのは周知が困難だからか。制度を知らない人が多いのではないか。

ぐんま子ども・若者未来ビジョン2020 進捗の芳しくない目標・指標に係る対応
総合的意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目により達成レベルが固定されている。困難な項目なのか、違う取り組みが必要かの検証が必要。
基本方針Ⅰ－１ 朝食を全く食べない小学生、中学生の割合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭環境の改善、食育による意識の改善の継続と子どもの健康のため、どうやって朝食を届けるのかの議論が必要 ・ 朝食を摂る必要性を子ども同士で考えさせて保護者にも重要性を伝えて欲しい。 ・ 全国での対処工夫の実態はどうか、現在対象となる子どもに何ができるか。 ・ 本人のみならず、家庭の生活様式の乱れから食べられない、困窮等で用意されないという調査結果もある。小中学生に朝食の大切さを指導するのが大切。資料に「食に関する指導や家庭への啓発にICTの活用が進んできている」としているが何を以てそう論ずるか根拠が必要。スマホの普及率と関係があるのか成果の説明が必要。「ICTの活用」等、漠然とした記述では伝わらない。オンライン学習システムの活用等、具体的な記述があっているのではないか。全国的にも県内的にも栄養教諭の採用配置が進んでいない現状の改善が必要。
基本方針Ⅰ－１ 10代の自殺者数
<ul style="list-style-type: none"> ・ 足を運んで相談する窓口より、気軽にアクセスできるサイトが有効 ・ 相談窓口について、本人のほか周囲の友人・家族など関係者が利用しやすくなるようにさらに周知が必要かと思う。
基本方針Ⅱ－１ 合計特殊出生率

- ・ マッチングとか意識改革などのレベルではない抜本的で実効性ある取り組みをしないと間に合わない問題だと認識。県だけができない問題ではないことを承知しているが、あまりにも教育費に公的投資が少なすぎる。高校の無償化は一步前進だが、高等教育についても進めていかなければならない。群馬県民は大学に半額で通える、無償で通えるなどの対策を本腰入れて取り組まないといけない時期。自分は大学に通ったのに、子どもは通わせられないとなると、当然生み控えるしかない。
- ・ 少子化の要因や背景は経済に直結しており、収入が望めない若者にとって家族をつくるという希望は叶わないと考える傾向にあると思う。例えば交付金は一時的なものが多いと考えられるので子育てをする上で最も必要な資金は何か、若い世代の統計を取るなどして当事者の声を反映させると良いのではないか。周囲（当事者以外）が思う結婚観や子育て観と違う意見ができるのではないか。
- ・ 国や県が力を入れて取り組んでいる重点施策であるはずなのに、何故、目標数値が低下しているのか。本当に子育て世代に必要とされる施策がなされているか。国の予算(交付金など)や施策に頼らず、本県独自の自主財源と全国的先駆けとなるような施策の充実が望まれる。特に、この分野における知事の強いリーダーシップの発揮が必要で期待される。そして、群馬県で子どもを産み育てられてよかったと言ってもらえるような環境を早期に確立してほしい。また、子育てする若い夫婦、世代などについては、経済的にも余裕がないことから、直接的、間接的を問わず経済的な援助を含めた支援の一層の充実が必要と考える。

基本方針 III-4 外国人生徒の進学率と全体の進学率の差

- ・ 問題～対策は大きすぎる面があり社会的施策＝予算付けも含めた議論を要するはず。

その他（委員全体的所感）

- ・ ゲームやスマホ等々の夜更かしで、睡眠時間が減少している。すると、夜遊び、ゲーム等々で生活のリズムが狂ってくる。犯罪も昼より、夜が多く、子供には、十分な睡眠が確保出来る事が最も大切と資料から感じた。